キャラクター名: 舞川二子（まいかわ-にこ）

プレイヤー名:

シンドローム	エンジェルハィロゥ キュマイラ	ワークス	宗教家	カヴァー	大学生
オプショナル		年齢	１９	性別	女
覚醒	死	衝動	解放	初期侵食率	36 %
出自	40：有名人	経験	21：死と再生	邂逅	58：同行者

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	0	0			3
感覚	3	0	0			3
精神	1	0	0			1
社会	1	1	0			2

HP	27
行動値	7
(非装備時)	7
戦闘移動	12
全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			ＲＣ			交渉	2	
回避			知覚	1		意志	3		調達	2	
運転：			芸術：マンガ	2		知識：			情報：噂話	4	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
日本刀	白兵	3r	3	5		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
スニーキングスーツ	調達	2			隠密状態での判定ダイス+1

合計装甲： 2　合計回避： 0

所持品	
思い出の一品	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
光使い	P	N		
父	P	N		
PC2	P	N		
カリオストロ	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8　残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセ:エンハイ	2	2	MeSy					
効果：C-Lv								
見えざる死神	3	2	Me白射					
効果：判定ダイス+1、ATK+[Lv*3]								
陽炎の衣	2	3	Mi					
効果：隠密。シーンLv								
ターゲットロック	3	3	Se					
効果：対象のみへのATK+[Lv*3]								
攻性変色	3	3	Se				Lim↑	
効果：シーン間、対象のみへのATK+[Lv*5]。暴走付与								
光の指先	1	2	MeSy				D	
効果：判定ダイス+[Lv+2]								
ハンティングスタイル	2	1	Mi					
効果：戦闘移動。シーンLv								
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

『未来研究所』という同人サークルには、"腐敗と掛け算の女神"と揶揄されるイラストレーターがいる。
それこそが舞川二子である。
彼女の描く性別・距離・人種、そのすべてを超えた恋愛・幸福の形は、見るものすべてを虜にするとさえ言われる。
R-18描写の描き方にも定評があり、彼女の同人誌は男性のみならず女性からも人気が高い。
一人称は『私』、二人称は『あなた』など、三人称は『あの人』『〇〇さん』など。
好きな食べ物はカプ（？！）とかいうおふざけはさておいて甘いもの。生クリームの誘惑。
嫌いな食べ物はマヨネーズ。つんとくるあの風味が苦手。
趣味はカプ妄想（これは趣味というより日課ともライフワークともいうべきか）。
特技はもちろん絵を描くこと。マンガやイラストの形式を好むが、一応風景画も行けないことはない。
～～
8歳のころに漫画家の父が、単行本に娘の描いた絵を掲載したのが彼女の始まりである。
娘可愛さ余っての事であったが、もとより絵をかくのが好きだった彼女は、より絵描きにのめり込んでいった。
父が個人で出展した同人誌即売会にて、彼女の描いた絵本が売り出されたのが翌9歳の時。
彼女のイラストレーター人生の始まりはこの地点であったといっていい。
しかし、体の弱かった彼女は14歳の時、ささいな感染症が悪化し死にかける。
幸い一命は取り留めたが、長い療養を要し、3か月ほど入院を余儀なくされた。
そんな入院生活の中で、すぐ近くの病室に入院していた少年に出会う。
少年は自分より気弱そうだったが、見舞いに来る友人と話すときはとても笑顔で元気になるのだ。
そんな二人をみて、彼女の方も元気をもらうほどだった。

ある日、少年が死んだと風のうわさで聞いた。隣りの病室には、怖くて様子を見に行けなかった。
でも、廊下の隅で泣く友人を見た時に、どうして二人は幸せになれなかったのだろうと、自分の事のように胸を痛めた。